

山瀬小学校いじめ防止基本方針

R7.12

1 いじめの防止等に関する基本的な考え方

- (1) 教育活動全体を通じ、全ての児童に「いじめは決して許されない」ことへの理解を促し、児童の豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度など、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。
- (2) いじめはどの子供にも起こりうる、どの子供も被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、より根本的ないじめの問題克服のためには、事案発生後の困難課題対応的生徒指導から、全ての児童生徒を対象とする発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導への転換が重要であり、児童の尊厳が守られ、児童をいじめに向かわせないための未然防止に、全ての教職員が取り組む。
- (3) ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から複数の教職員で的確に関わり、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する。
- (4) 発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応し、いじめを受けた児童生徒やいじめを知らせてきた児童生徒の安全を確保し、いじめを行ったとされる児童生徒に対して事情を確認した上で毅然とした態度で指導する。
- (5) P T Aや地域の関係団体、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用したりするなど、より多くの大人が子供の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、学校と家庭、地域が組織的に連携・協働する体制を構築する。
- (6) いじめる児童に対して必要な教育上の指導を行っているにもかかわらず、その指導により十分な効果を上げることが困難な場合などには、関係機関（警察、中央子ども女性相談センター、医療機関等）との適切な連携を図るとともに、平素から、学校と関係機関の担当者との情報共有体制を構築する。

2 いじめの防止等の対策のための組織

- (1) 組織の構成
「学校いじめ防止対策委員会」（以下「学校対策委員会」）は、学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、学校の実情に応じて複数の教職員（管理職や主幹教諭、生徒指導担当教員、学年主任、養護教諭、学級担任、学校医等）により構成する。個々のいじめの防止・早期発見・対処に当たって関係の深い教職員を追加する。また、可能な限り心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー）等の助言を得る。
- (2) 組織の役割
 - ① 学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正を行う。
 - ② 児童・保護者や教職員からのいじめの相談・通報の窓口となり、報告を受ける。
 - ③ いじめの疑いに係る情報や児童の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有を行う。
 - ④ 緊急会議を開いて、いじめの情報の迅速な共有、関係のある児童への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携を行う。

3 教育相談体制

- (1) 学校と児童及び保護者、さらには児童間の好ましい人間関係の醸成に努める。
- (2) 児童の個人情報に配慮するとともに、教員に相談すれば、秘密の厳守はもとより、教員は必ず自分を助けてくれるという安心感や信頼感の醸成に努める。
- (3) 定期的な教育相談週間や相談日等を設定するなど、児童はもとより、保護者も気軽に相談できる体制を整備し、保護者からの相談を直接受け止められるようにする。
- (4) 相談の内容によっては指導を継続し、必要に応じて医療機関等の専門機関との連携を図る。
- (5) 児童や保護者に対して、広く教育相談が利用されるよう、学校の内外を問わず多様な相談窓口について広報・周知に努める。

4 いじめの未然防止のための取組

(1) 教育・指導場面

- ① 教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進により、児童の社会性を育むとともに、幅広い社会体験・生活体験の機会を設け、他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養う。また、全ての児童が心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に参加・活躍できる授業づくりや集団づくりを行う。
- ② 学校の教育活動全体を通じ、児童が活躍でき、他者の役に立っていると感じることでできる機会を全ての児童に提供し、児童の自己有用感が高められるよう努める。また自己肯定感を高められるよう、困難な状況を乗り越えるような体験の機会などを積極的に設ける。
- ③ 児童自らがいじめ問題について学び、そうした問題を児童自身が主体的に考え、児童自身がいじめの防止を訴えるような取組が促進されるよう適切な指導や助言を行う。
- ④ 「いじめ防止子ども委員会」の活動を通して、児童生徒がいじめ問題を自分のこととして捉え、解決に向けて主体的に取り組み、いじめのないより良い学校づくりをしようとする積極的な態度と実践力を養う。
- ⑤ 背景には、勉強や人間関係等のストレスが関わっていることを踏まえ、授業についていけない焦りや劣等感などが過度なストレスとならないよう、一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくりを進める。また、ストレスを感じた場合、それを他人にぶつけるのではなく、運動や読書などで発散したり、誰かに相談したりするなどストレスに適切に対処できる力を育む。
- ⑥ 被災時には、誰もがひっ迫した状態になり、人権感覚が薄れる状況に陥りやすいため、児童生徒が被災し、避難所に避難した場合でも、お互いが協力し合い、支え合う人間関係を築くことができる力を育てる。
- ⑦ 児童生徒に対して、インターネット等を通じて行われるいじめに対処するために、情報モラル教育を充実し、インターネット上のいじめ等への対策を図るとともに、スマホネット安全教室等を行い、情報モラルの向上に関する指導の充実を図る。
- ⑧ インターネット上のいじめが重大な人権侵害に当たり、いじめを受けた児童生徒等に深刻な傷を与えかねない行為であることを理解させる取組を行う。インターネット上の不適切な書き込み等については、消去することは非常に難しく、事案によっては刑法上、民事上の責任を負う可能性があることを理解させる。
- ⑨ 学級活動や道徳の時間に、いじめに関わる問題を取り上げ、「いじめは人間として絶対に許されない」との強い認識を、学校教育全体を通じて、児童一人一人に徹底する。そのために、校内研修や職員会議でいじめについての周知を図り、普段から教職員全員による共通理解を図る。
- ⑩ 教職員の言動が、児童を傷付けたり、他の児童によるいじめを助長したりすることがないように、細心の注意を払うとともに、児童の言葉や態度及び遊び等に注意を払い、不適切な場合は指導する。
- ⑪ 特に配慮が必要な児童生徒については、日常的に、当該児童生徒の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童生徒に対する必要な指導を組織的に行う。
- ⑫ 「ゆすり」や「たかり」は、警察との連携を緊密にして対応する。また、「おごり」という名目で「ゆすり」や「たかり」が行われている場合があるため、地域や保護者と連携し、児童生徒の行動や交友関係等をしっかりと把握し、早期発見に努め、適切に対応する。
- ⑬ いじめや不登校等の問題行動の未然防止のために、中学校に入学する児童に関する丁寧な引継ぎや、不安感を取り除く取組等、小学校と中学校の円滑な接続を図る。

(2) 家庭・地域社会との連携

- ① 学校いじめ防止基本方針や指導計画を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努める。
- ② 家庭や地域社会と連携して、いじめ問題の解決を進める姿勢を示すとともに、必要に応じて警察・中央子ども女性相談センターとの円滑な連携や情報の共有を図る。
- ③ P T Aや地域の関係団体とともに、いじめ問題について協議する機会を設け、いじめの根絶に向けて、地域ぐるみの対策を推進する。

5 早期発見・早期対応の在り方

- (1) 各学期の始業式及び入学式等において、すべての児童や保護者に対して、いじめを許さない学校の取組や、いじめられている児童を全力で守りぬくことを明らかにし、児童や保護者が学校を信頼し、安心していじめ等の相談をできるよう働きかける。
- (2) 「いじめ発見のための観察ポイント（教員用）」等を使用しつつ、日常的にいじめの発見に努め、児童が発する危険信号を見逃さず、その一つ一つに的確に対応する。
- (3) 全児童を対象としたいじめ発見のための1人1台端末等を活用した「アンケート調査」を毎月はじめに実施することに加え、「個別面談」、「日記や連絡帳」の記述等から、児童の悩みや対人関係での状況をきめ細かく把握し、いじめの認知については、「いじめの防止等の対策のための組織」において組織的に判断する。
- (4) いじめの把握にあたっては、生徒指導担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等、学校内の専門家との連携に努める。特に、けが等にも留意し、背景にいじめがないか確認する。
- (5) 児童に絶えず声かけを行い、児童が日常使っている言葉や態度、遊び等に注意を払うとともに、気付いたことについて教職員の情報交換を密に行う。
- (6) 児童が欠席や遅刻をしたり、けがをしていたりした場合は、必ずその理由を確認し、保護者と連絡を取る。
- (7) いじめについて訴えや情報があった時は、問題を軽視することなく、保護者や友人関係等からの情報収集を通じて事実関係を正確に調査し、いじめを認知した場合は、速やかに吉野川市教育委員会に報告し、適切な連携を図る。
- (8) 保護者に対して、「いじめ発見のための観察ポイント（保護者用）」を配布し、いじめ問題への関心をもってもらい、保護者からの情報提供を促す。

6 いじめへの対処

(1) いじめの発見・通報を受けたときの対応

- ① いじめの訴えや情報及び兆候等があった時は、一人で抱え込まず、「学校対策委員会」と直ちに情報を共有する。当該組織が中心となり、速やかに関係児童生徒から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行う。管理職の指示のもと、問題を軽視することなく、正確かつ迅速に事実関係の把握を行う。
- ② 「学校対策委員会」において、速やかに関係児童等から事情を聴取するなど必要な調査を実施するとともに、認知したいじめへの対応方針を決定する。
- ③ 職員会議を通じて、いじめの情報を共有し、対応方針について全教職員の共通理解を図る。
- ④ いじめられた児童、いじめた児童への具体的な支援や指導について、教職員一人一人の役割分担を明確化し、組織的に対応するとともに、保護者に対して適切に情報提供を行い、連携・協力を図る。

(2) いじめられた児童、保護者への支援

- ① いじめられた児童を徹底して全力で守りぬく。
- ② いじめられた児童が安心して教育を受けられるようにするために必要な措置を講ずる。
- ③ 複数教員による当該児童の見守り、家庭訪問等を行う。
- ④ 本人や保護者に必要な情報を適切に提供する。
- ⑤ 本人や保護者の気持ちに寄り添い、要望や相談には適切に対応する。
- ⑥ スクールカウンセラーの活用等、専門家による継続的な心のケアに取り組む。

(3) いじめた児童への指導と保護者への助言

- ① 毅然とした対応と粘り強い指導を通じて、行為に対する責任を自覚させ、十分な反省を促す。
- ② いじめられた児童を守る観点から、必要に応じて別教室等での学習や出席停止等の措置を行う。
- ③ いじめの背景を考え、健全な人格の発達を促すため、専門的見地からの分析・助言を踏まえ指導を行い、再発防止に努める。
- ④ 複数教員で家庭訪問を行い、保護者に正確な説明を尽くし、理解と協力を求める。

(4) 他の児童への指導

- ① 新たないじめを防止するための指導の徹底を図る。
- ② いじめを見ていた児童生徒に対しても、自分の問題として捉えさせる。たとえ、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気を持つよう伝える。

また、はやしたてるなど同調していた児童生徒に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させる。「いじめは人間として絶対に許されない」との意識を徹底させる。

- ③ 児童自身の主体的な参画によるいじめの問題への取組促進などにより、いじめを許さない学校づくりを進める。

(5) 教育委員会等への報告と連携

- ① いじめを認知した場合は、学校長が速やかに吉野川市教育委員会に報告し、適切な連携を図るとともに、いじめられた児童を守る観点から、必要に応じて出席停止措置の適用を要請する。
- ② 事案によっては、県教育委員会と連携し、阿波っ子スクールサポートチームや学校問題解決支援チーム、スクールカウンセラーの派遣を要請し、外部専門家の力を借りて対応する。

(6) 関係機関への相談・通報

- ① 恐喝、暴行、傷害等の犯罪行為として取り扱われるべきと認められる事案は、ためらうことなく早期に警察に相談し、警察と連携した対応を取る。また、警察への相談・通報を行うことについて、あらかじめ保護者等に対して周知を行う。犯罪行為として取り扱われるべきと認められる事案や重大ないじめ事案として警察への相談又は通報すべき事例については、「徳島県いじめの防止等のための基本的な方針」（令和7年2月）を参考とする。
- ② 生命又は身体の安全が脅かされるような場合には、直ちに警察に通報する。
- ③ ネット上のいじめが行われた場合、被害の拡大を避けるため、いじめに係る情報の削除依頼や発信者情報の開示請求について、必要に応じて警察や法務局に協力を求める。

(7) 指導の継続

いじめは、単に謝罪をもって安易に解消とすることはできない。いじめが「解消している」状態とは、いじめに係る行為が少なくとも3か月間止んでいること、いじめを受けた児童生徒本人及びその保護者に対して面談等を実施し心身の苦痛を感じていないことの二つの要件が満たされている必要がある。ただし、これらの要件が満たされ、「解消している」状態であっても、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、日常的に注意深く見守る。

7 校内研修

全ての教職員の共通認識を図るため、年に一回以上、いじめを始めとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修（事例研究やロールプレイ等）を行い、組織的かつ迅速な対応の方策を確認する。

8 重大事態への対処

いじめにより、児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じたり、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされたりしている疑いがあると認めるとき、事実確認の結果を直ちに吉野川市教育委員会に報告するとともに、吉野川市教育委員会と連携して対処する。

9 取組の評価

- (1) いじめ問題への取組について、学校評価の項目に加え、自校の取組を評価する。
- (2) PDCAサイクルの考え方に従い、年間計画で決めた期間の終わりには、「取組評価アンケート」等を実施し、その結果を踏まえてその期間の取組が適切に行われたか否かを検証する。
- (3) 期待するような指標等の改善が見られなかったような場合には、その原因を分析し、次の期間の取組内容や取組方法の見直しを行う。

10 年間計画

	「いじめの防止等の対策のための組織」・校内研修等	1年	2年	3年
4月	学校基本方針の説明、指導体制や指導計画の公表・周知 校内研修	あいさつ運動 授業参観・PTA総会 個人懇談 1年生を迎える会	あいさつ運動 授業参観・PTA総会 個人懇談 1年生を迎える会	あいさつ運動 授業参観・PTA総会 個人懇談 1年生を迎える会
5月	問題行動の共通理解 保護者向けチェックリスト配付	読書活動開始 1、2パーティー 遠足	アンケート調査 1、2パーティー 遠足	読書活動開始 校区探検 友達の良いところ カード 遠足
6月	アンケート調査 アンケート調査分析	日曜参観 異学年交流	日曜参観 校区探検	日曜参観
7月	校内研修	清掃奉仕活動 水泳学習 校外補導 個人懇談	水泳学習 生活科（野菜収穫祭） 教育相談 個人懇談	清掃奉仕活動 水泳学習 校外補導 個人懇談
8月	1学期取組点検評価・改善 取組の成果等の情報発信と保護者啓発	校外補導 補充学習 地域子ども会活動 読み聞かせ	清掃奉仕活動 校外補導 読み聞かせ	校外補導 補充学習 地域子ども会活動
9月	アンケート調査 アンケート調査分析 保護者向けチェックリスト配付	運動会 人権学習	運動会 人権学習	運動会 人権学習
10月	研究授業	生活科（収穫祭）	アンケート調査 校区探検	総合学習（地域との交流）
11月	校内研修	山瀬ハートフル人権集会	山瀬ハートフル人権集会	山瀬ハートフル人権集会 読み聞かせ
12月	アンケート調査 アンケート調査分析 2学期取組点検評価・改善	生活科（家の仕事）	1年生との交流 （おもちゃ広場）	
1月	保護者向けチェックリスト配付	山水会との交流学習会	生活科（わたしの成長）	学習発表会 昔の道具とくらし体験学習 市役所の見学
2月	校内研修	参観日・人権講演会 読み聞かせ 体験入学 アンケート調査 6年生を送る会	参観日・人権講演会 読み聞かせ アンケート調査 6年生を送る会	参観日・人権講演会 読み聞かせ アンケート調査 6年生を送る会
3月	1年間の取組点検評価・改善と次年度の計画	地域別子ども会 卒業式	地域別子ども会 卒業式	地域別子ども会 卒業式

	「いじめの防止等の対策のための組織」・校内研修等	4年	5年	6年
4月	学校基本方針の説明、 指導体制や指導計画の 公表・周知 校内研修	あいさつ運動 授業参観・PTA総会 個人懇談 1年生を迎える会	あいさつ運動 授業参観・PTA総会 個人懇談 1年生を迎える会	あいさつ運動 授業参観・PTA総会 個人懇談 1年生を迎える会
5月	児童理解 問題行動の共通理解 アンケート調査分析	読書活動開始 学校探検 アンケート調査 遠足	読書活動開始 学年PTA アンケート調査 宿泊学習	アンケート調査 修学旅行
6月	保護者向けチェックリ スト配布・分析	日曜参観 異学年班活動 予防教育	日曜参観	日曜参観 (救急救命法) 総合学習(職業体験)
7月	校内研修 アンケート調査分析 個人懇談	清掃奉仕活動 水泳学習 校外補導 個人懇談	水泳学習・校外補導 個人懇談	異学年班活動 アンケート調査 個人懇談 水泳学習・校外補導
8月	1学期取組点検評価・ 改善 取組の成果等の情報発 信と保護者啓発	校外補導 補充学習 地域子ども会活動 地区懇談会	校外補導・補充学習 読み聞かせ	清掃奉仕活動 校外補導・補充学習 読み聞かせ
9月	児童理解 問題行動の共通理解	運動会 人権学習	運動会 人権学習	運動会 人権学習
10月	アンケート調査分析 校内研修	総合学習(防災学習) 異学年班活動	稲刈り アンケート調査	アンケート調査
11月	山瀬ハートフル人権集 会	山瀬ハートフル人権 集会	山瀬ハートフル人権 集会 宿泊	山瀬ハートフル人権 集会 修学旅行
12月	2学期取組点検評価・ 改善		ブロッコリー収穫祭	
1月	児童理解 問題行動の共通理解		教育相談	教育相談
2月	人権講演会 保護者向けチェックリ スト配付	参観日 6年生を送る会	アンケート調査 参観日・人権講演会 読み聞かせ 6年生を送る会	アンケート調査 参観日・人権講演会 読み聞かせ 6年生を送る会
3月	問題行動の共通理解 1年間の取組点検評価 ・改善と次年度の計画	地域別子ども会 卒業式	地域別子ども会 卒業式	地域別子ども会 卒業式